

当初予算の事業の一部をご紹介します

人を育て、人を惹きつけるまちをつくる	産業を育て、はたらく場を広げる	健全な環境と、安全・安心な暮らしを守る
新 第3子以降の保育料を無償化 5億3,409万円	新 中小企業のM&Aによる事業承継を支援 2,004万円	新 「ペロブスカイト太陽電池※」の普及を推進 1億1,500万円 ※ペロブスカイト太陽電池:軽量・柔軟であり、これまで設置が困難であった建物壁面などにも導入可能な次世代型太陽電池の一つ
新 県立高校の体育館等へのエアコン設置を推進 1億524万円	新 スタートアップエコシステムの形成を強力に推進 5,055万円	新 幼児期から学齢期におけるワンヘルス教育を推進 1,203万円
新 ジェンダー平等に向けた気づきと行動を推進 1,725万円	新 超集積※半導体の産業化を推進 2,427万円 ※超集積:半導体後工程の先進技術によって、チップを高度に集積させること	流域治水を推進 7,861万円
新 妊婦と乳幼児の歯と口の健康づくりを推進 807万円	新 強い農業構造を確立 1億5,692万円	緊急輸送道路等を整備 198億7,272万円
新 「マイナビ ツール・ド・九州2025」を開催 1億8,888万円	新 八女茶の世界ブランド化を推進 9,975万円	新 暴力団、トクリウウの壊滅に向けた対策を強化 7,946万円
新 県営公園にインクルーシブな空間を整備 2億2,600万円		新 警固界隈のこども・若者を支援 8,854万円
新 豊筑・有明地域を振興 2,185万円		

補正予算の事業をご紹介します

光熱費の負担軽減を図るための支援	○LPガスの使用世帯・事業所に対し、LPガス代の一部を支援 10億9,987万円
	○特別高压で受電する中小企業・医療施設等に対し、電気代の一部を支援 5億499万円

予算特別委員会から

審査日程：6月23日から27日、30日、7月2日

令和7年度の当初予算は、一般会計で、2兆1877億8200万円余、特別会計の総額で1兆1266億7300万円余、企業会計の総額で485億6900万円余となっており、一般会計は前年度当初予算比2.6%増となっています。

また、補正予算は16億400万円余となっています。予算特別委員会に付託された、「令和7年度福岡県一般会計予算」など21件については、いずれの議案も起立多数をもって原案のとおり可決しました。

審査の過程において議論された主な内容は、本会議場での採決の前に香原勝司委員長が報告を行いました。

以下、その委員長報告について要約したものを掲載します。

【歳入確保】

委員からは、物価上昇局面における歳出拡大に対応する歳入の確保について質され、執行部からは、財政改革プランの着実な実施に加え、地方交付税を含む地方一般財源の総額確保や、ワンヘルスボンドを活用した安定的な資金調達に取り組んでいくとの答弁がありました。

また、委員からは、コロナ禍で多くの命が失われたことや多額の財政支出に触れ、人類が同じ轍を踏まぬよう、知事が進めるワンヘルスの理念と実践は重要な施策であり、県民の命と安全を最優先に守りつつ、財政健全化と成長発展のための施策をバランスよく進めるべきとの意見がありました。

【県境の地域振興】

県の発展のためには、県境

地域の特色を生かした振興策の推進が必要であります。委員からは、有明地域を中心に県境地域の振興策について質され、執行部からは、県境の地域振興を全庁的な課題と位置づけ、関係市町の意見を反映させるとともに、今年度当初予算には既存事業を含む複数の施策を盛り込んでおり、その推進に当たっては隣接県や関係市町と緊密に連携しながら取り組んでいくとの答弁がありました。

【環境及びエネルギー施策】

世界各国が脱炭素社会の実現を目指す中、本県においても新技術の着実な普及促進が求められています。委員からは、我が国の太陽電池産業の経緯や国の方針を踏まえ、ペ

ロブスカイト太陽電池の普及推進に向け、規模とスピードをもつて社会実装と需要創出を進めるよう質され、執行部からは、日本発の技術であり、脱炭素化と産業競争力強化の切り札として期待されていること、今年度は県有施設への導入や民間実証支援に着手し、今後は次期総合計画への反映も含めた検討を進め、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、普及拡大を図っていくとの答弁がありました。

【ワンヘルスの推進】

委員からは、ワールド・ワンヘルス・コンGRESの誘致活動の手応えについて質され、知事からは、国内外の様々な機会を捉え、ワールド・ワンヘルス・コンGRESの誘致を進めており、昨年8月には世界獣医師会からの応援を得るため、蔵内勇夫世界獣医師会次期会長に橋渡しをお願い

し、県議会と連名で要請書を提出したところであり、今後とも県議会とともに誘致成功に取り組んでいくとの答弁がありました。

また、委員からは、ワンヘルスの知の集積を進めるため、ワンヘルス国際フォーラム及びワンヘルスセンターの今後の展開について質され、知事からは、ワンヘルス国際フォーラムを最新の知見の習得や海外の専門家と県内大学等の研究者間の協力関係の構築などにより、世界から注目され発信力のある国際会議へ発展させていくとともに、ワンヘルスセンターが分野横断的なワンヘルス研究に取り組む施設となるよう、専門人材の育成やワンヘルス総合データベースの構築などの取り組みに加え、国内外の研究機関などとの連携による共同研究を進めていくとの答弁がありました。

さらに、知事からはこうした取り組みにより、ワンヘルスアプローチによる人獣共通感染症、生物多様性の損失、また地球温暖化といった、人、動物、環境の各分野にまたがるリスクの解決を図り、県民の命と健康を守り、我が国はもとより世界におけるワンヘルスの推進に貢献していくとの決意が示されました。

【母子保健の推進】

妊娠期から産後にかけて切れ目ない支援は、安心して出産・育児を行う上で重要な取り組みです。

委員からは、生涯にわたる菌の健康の基礎となる妊娠期と乳幼児期の口腔ケアの重要性について質され、執行部からは、今年度の新規事業を活用し、市町村のニーズを踏まえながら妊産婦歯科検診の受診率向上や実施市町村の拡大、正しい食べ方や口腔機能向上の支援に努め、生涯にわ

たる健康な生活の基礎づくりに取り組んでいくとの答弁がありました。

また、委員からは、産後ケア事業は市町村から実施施設へ支払われる委託費に地域間格差があり、その委託費の統一について質され、執行部からは、産後ケア事業はどの施設においても同じサービスが受けられるよう、委託費の考え方について市町村間の統一を図る必要がある、今後関係機関と協議の場を設置するとの答弁がありました。

【男女共同参画社会の実現】

委員からは、ジェンダー平等・男女共同参画社会を実現していくためには、形式的・表面的な目標達成に偏らず、県全体で男女協働の視点を持ち、取り組むべきではないかと質され、知事からは、ジェンダー平等の実現に向け、男女間格差の解消や施策の数値目標の設定、人事配置の工夫に取り組んできたことに加え、全庁的にアンコンシャスバイアスへの自覚を促し、性別に捉われないこと、誰もが人権を尊重され、社会のあらゆる分野で自分に合った生き方を選択し、個人として持つ能力を存分に発揮することができるとともに、ジェンダー平等・男女共同参画社会の実現に向け、今後ともしっかりと取り組んでいくとの答弁がありました。

【農林水産業の振興】

委員からは、持続可能な農業の実現に向け消費者に対する適正価格での取引への理解促進とともに、生産者のコストの低減及び経営面積の拡大、また、生産性の向上に取り組む意欲ある「企業型経営体」の育成が重要ではないかと質され、執行部からは、農産物の合理的な価格形成に関するテレビ番組などの広報を行い、消費者の理解促進を深めるとともに、「企業型経営体」の育

成に力を入れ、経営面積の拡大や効率化を推進していくとの答弁がありました。

また、委員からは、県産食材と県産酒の魅力発信や、伝統行事と食文化の繋がりを通じた消費拡大について質され、執行部からは、国内外に向けて魅力発信を行うことが販売強化となり、稼げる農林水産業の実現に繋がることから、インバウンド向けフェアや首都圏や県内でのプロモーションなどの販売促進を関係団体と連携して進めていくとの答弁がありました。

【防災・減災対策】

委員からは、緊急輸送道路の重要性を踏まえ、災害に強い道路ネットワークの構築に向けた取り組みの強化について質され、執行部からは、バイパス整備や道路橋の耐震化、老朽化対策を推進するとともに、災害発生時に備え自衛隊など関係機関との連携強化を図るとの答弁がありました。

また、委員からは、災害発生に備え、流域自治体をはじめ関係機関と協働で取り組む流域治水対策の重要性について質され、執行部からは、国の国土強靱化予算を活用し、調節池や排水機場、地下放水路などの整備を進めるなど、治水対策を着実に進めていくとの答弁がありました。

【県立高校の魅力向上】

委員からは、私立高校での授業料無償化は、今後の県立高校の将来に大きく影響を与えらるものであり、各校の特色や伝統を生かしつつ、社会の変化を踏まえて、今後いかにその魅力を向上していくのかと質され、教育長からは、県立高校はすべての地域において質の高い高校教育を提供する重要な役割を担っており、持続的な人材育成の要としての役割を果たしつつ、生徒一人一人の自己実現に向け各校の魅力化・特色化を推進し、生徒や保護者から選ばれ、地域から求められる学校づくりに全力で取り組んでいくとの答弁がありました。

【その他】

このほかにも、地域公共交通の運転手確保、平和文化事業、訪問介護事業所の体制、民泊事業、骨髄ドナー登録、産業廃棄物対策、ドギーバックの普及、果樹の生産振興、中小企業支援、警察署内での迷子ペットの取扱い、違法オンラインカジノ対策、県立高校の役割と課題、特別支援学校での医療的ケア児支援、県立高校の教員採用など多岐にわたって質疑、要望がなされました。



予算特別委員会委員一覧

◎香原 勝司				○新井富美子			
長 裕海	秋田 章二	中 年田	仲 二夫	田 伊	伊 三彦	仲 三夫	仲 三夫
桐 明	江口 善一	補 笠林	伊 伊	伊 伊	伊 伊	伊 伊	伊 伊
大 和久	吉田 健一	原 中山	原 中山	原 中山	原 中山	原 中山	原 中山
田 満	宮原 伸一	渡 美穂	渡 美穂	渡 美穂	渡 美穂	渡 美穂	渡 美穂
永 俊彦	佐藤 渡辺	坪 多恵	坪 多恵	坪 多恵	坪 多恵	坪 多恵	坪 多恵
横 政則	川上 大塚	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子
井 博隆	大塚 幸子	堀 香織	堀 香織	堀 香織	堀 香織	堀 香織	堀 香織
中 雅臣	大塚 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子
上 寛	大塚 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子
田 大助	大塚 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子
井 香織	大塚 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子
堀 香織	大塚 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子
後 藤	大塚 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子	井 幸子

(◎は委員長、○は副委員長)